

## 議論のポイント(第3期知床半島エゾシカ管理計画)

### ○第1回 WG(2016/06/28 開催)からの宿題と、その対応

#### 1) 管理ユニットとモニタリングユニットの一致(エリア境界線の一致)。

- ・各資料で結果を示す際に用いるモニタリングユニットの境界線を、境界線微調整済みの植生モニタリングユニット(例:R13, S04 など)として各資料を再整理した。
- ・資料 1-1 別表「保護管理概要図付表」は、上記モニタリングユニットごとの数字に変更済み。

#### 2) 各地区のシカ個体数の変化を、個体数指数で表現する。

- ・資料 1-1「第2期中間総括」に、2010(H22)シカ年度の水準を100として、その後の変化がわかるような個体数指数を提示した。

#### 3) シカ捕獲推進の阻害要因となっている物理的・社会的制約と解決策のリストアップを行う。

- ・資料 1-1「第2期中間総括」に、地区ごとの現状、課題(物理的・社会的制約)、解決策案の順に列記した。

#### 4) 植生指標について、第3期計画で使えるよう整理する。

- ・資料 1-5「植生指標のとりまとめと第3期エゾシカ管理計画への反映について」に、整理の進め方と第3期計画における記載事項(案)を示した。

### ○今回の議論のポイント (下線部分は確定済)

#### ① 「生息環境改変」の方向性について (全体:管理手法)

方針 :

→ 具体的な事業はないが、資料 1-4 素案に、考え方のみ記述。

#### ② 捕獲技術者の育成(人材育成)をどのように進めるか? (全体:管理手法)

方針 : 中長期的に持続可能な個体数管理体制の実現には必須であり、記述追加を検討。

現状では、資料 1-4 素案の計画実施主体の北海道の役割に記述がある。

③ ルシヤ地区の取り扱い（エゾシカ A 地区:管理方針）

方針： 少なくとも第3期には人為的介入を行わない方針。ただし、植生及び個体数モニタリングを注意深く実施。

→ 資料 1-4 素案に、モニタリングの実施について記述。

# 植生調査区の追加設定が必要か？

（現行では、森林植生及び海岸植生調査を5年周期で実施）

④ 相対的低コストでのエゾシカ低密度状態の維持（特定管理地区:管理手法）

方針： 気象条件（積雪量）に合わせて、その年の捕獲手法を柔軟に選択する。

→ 資料 1-1 中間総括に、物理的・社会的制約と解決策案を記述。資料 1-4 素案に、方針を記述。

⑤ 大幅な減少に成功した一方で、目標生息密度まで低下させることができていない状況下での、捕獲圧のかけ方（エゾシカ B 地区:管理手法）

方針： 第2段階目標（個体数調整の中長期目標）の達成には革新が必要。

→ 資料 1-1 中間総括に、地区ごとの物理的・社会的制約と解決策案を記述。資料 1-4 素案に、方針を記述。

⑥ 第2期計画で掲げていたコミュニティーベースの個体数調整をどう進めるか？（隣接地区:管理手法）

方針： 林野庁の協力による個体数調整の成果継続を後押しする。

→ 資料 1-1 中間総括に、地区ごとの物理的・社会的制約と解決策案を記述。

資料 1-4 素案に、林野庁の貢献について記述。

⑦ 個体数調整の目標設定を具体的に記述するか？（全体・各地区:管理目標、モニタリングと評価）

方針： ヘリセンサス調査に基づいた個体数指数と生息密度を用いて、目標設定を行う。

→ 資料 1-1 中間総括に、各地区の個体数指数と生息密度を記述。資料 1-4 素案に、一部の地区に目標値を記述し、第3章「モニタリング調査と評価」に評価プロセスを記述。

# 個体数指数の基準年を 2002 シカ年度とするか、2010 シカ年度とするか？

⑧ 植生指標に関する記述の方向性について（全体:モニタリングと評価）

方針： 計画実施プロセスの中での、植生指標評価の位置づけを明確にする。

→ 資料 1-4 素案の第3章「モニタリング調査と評価」において、植生指標を用いた評価について記載。今後、植生指標検討部会を経て、第3期計画の別添として評価プロセスを記述。